第７章　その他の取引

７－１　消耗品

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

消耗品に関する仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「消耗品」勘定（資産）

「消耗品費」勘定（費用）

消耗品（しょうもうひん）とは文房具やコピー用紙など短期的に使用されるものをいいます。

消耗品の処理は購入時（支出時）に「**消耗品費**」勘定（費用）で処理し、決算整理において、**未使用分**を「消耗品費」勘定（費用）から「**消耗品**」勘定（**資産**）に振り替えます。

例題７－１　**消耗品1,000円を購入し、代金は現金で支払った。そのうち、800円分を使用し、期末に200円分が残っている。**

① 購入時（期中取引）

購入時に「消耗品費」勘定（費用）で処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
消　耗　品　費	**1,000**	**現　　　金**	**1,000**

② 使用時（期中取引）

使用時には特に仕訳を行いません。

③ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

消　耗　品　費	1,000	

④ 決算整理

実際に使用した800円分を費用として計上し、未使用分200円は資産に計上するため、決算整理において、未使用分200円を「消耗品費」勘定（費用）から「**消耗品**」勘定（**資産**）に振り替えます。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
消　　耗　　品	**200**	**消　耗　品　費**	**200**

⑤ 決算整理後残高試算表

決算整理後の「消耗品費」勘定（費用）は使用した800円、「消耗品」勘定（資産）は未使用分200円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

消　　耗　　品	200	
消　耗　品　費	800	

７－２　訂正仕訳

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

訂正仕訳の行い方をマスターしよう！

取引時に仕訳を行ったが、勘定科目を間違えたり、金額を間違えたりする場合があります。その場合、正しい処理になるように**訂正仕訳**（ていせいしわけ）を行う必要があります。

処理としては、まず、①誤った仕訳を取り消すために、誤った仕訳の貸借反対の仕訳を考えます。これを逆仕訳（ぎゃくしわけ）（または反対仕訳（はんたいしわけ））といいます。次に、②正しい仕訳を考えます。この①と②を合算した仕訳が訂正仕訳となります。

（1）勘定科目の間違い

例題７－２　売掛金1,000円の回収として当座預金に振り込まれたが、間違えて売上勘定の貸方に記入していた。

実際に以下の仕訳を行っています。

当座預金　1,000 / 売上　1,000

訂正仕訳を行うには、まず、①誤った仕訳の逆仕訳を考えます。

売上　1,000 / 当座預金　1,000

次に、②正しい仕訳を考えます。

当座預金　1,000 / 売掛金　1,000

①と②を合計した仕訳が、訂正仕訳となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	**1,000**	**売掛金**	**1,000**

実際に行った仕訳の借方「当座預金」は正しく、貸方の「売上」が間違いですので、それを正しく「売掛金」に訂正しています。

（２）金額の間違い

例題７－３　売掛金1,000円の回収として当座預金に振り込まれたが、間違えて100円として仕訳を行っていた。

実際に以下の仕訳を行っています。

当　座　預　金　　100 / 売　掛　金　　100

訂正仕訳を行うには、まず、①誤った仕訳の逆仕訳を考えます。

売　掛　金　　100 / 当　座　預　金　　100

次に、②正しい仕訳を考えます。

当　座　預　金　　1,000 / 売　掛　金　　1,000

①と②を合計した仕訳が、訂正仕訳となります。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
当　座　預　金	**900**	**売　掛　金**	**900**

実際に行った仕訳では、借方の「当座預金」が900円少なく、貸方の「売掛金」が900円少ないので、それを正しく訂正しています。

（３）未処理

本来行うべき仕訳を行っていなかった場合があります。それを**未処理**（みしょり）といいます。未処理が判明した場合には、本来行うべき仕訳を行って下さい。

例題７－４　売掛金1,000円の回収として当座預金に振り込まれたが、未処理であった。

この取引に関して仕訳が行われていませんので、本来行うべき仕訳を行います。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
当　座　預　金	**1,000**	**売　掛　金**	**1,000**

第７章　その他の取引　問題

問題7-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　決算整理前の消耗品費勘定の金額は120,000円であった。期末において、消耗品未使用高が30,000円であったので、決算において必要な処理を行いなさい。

②　商品45,000円を掛けで販売したが、誤って54,000円と記入していたので、正しい金額に修正する。

③　商品77,000円を仕入れ、代金のうち23,000円は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとしたが、本日、注文時に手付金として35,000円を支払っていたことが判明したため、訂正を行う。なお、掛代金についてまだ、決済は行われていない。

第７章　その他の取引　答案用紙

問題7-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				

第７章　その他の取引　解答解説

問題7-1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	消耗品	30,000	消耗品費	30,000
②	売上	9,000	売掛金	9,000
③	買掛金	35,000	前払金	35,000

問題14-1　**解説**

①　決算時に当期未使用高を「消耗品費」勘定（費用）から「消耗品」勘定（資産）に振り替えます。

②　実際に行われた仕訳は以下です。

売掛金　54,000 / 売上　54,000

あるべき仕訳は以下です。

売掛金　45,000 / 売上　45,000

したがって、訂正仕訳は以下となります。

売上　9,000 / 売掛金　9,000

③　実際に行われた仕訳は以下です。

仕入	77,000	現金	23,000
		買掛金	54,000

あるべき仕訳は以下です。

仕入	77,000	現金	23,000
		前払金	35,000
		買掛金	19,000

したがって、訂正仕訳は以下となります。

買掛金　35,000 / 前払金　35,000